

第 2 回リニア駅周辺整備検討会議 次第

平成 27 年 11 月 24 日（火）9 時 00 分～

飯田市役所 第 2 委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

第 1 回リニア駅周辺整備検討会議の報告 〔資料 1〕

4 協議事項

リニア中央新幹線駅周辺整備計画の検討について 〔資料 2〕

5 参考資料

（ 1 ）地理的条件の整理 〔資料 3〕

（ 2 ）交通事業者へのヒアリング結果 〔資料 4〕

（ 3 ）他地域の事例 〔資料 5〕

6 その他

7 閉 会

第1回リニア駅周辺整備検討会議の報告

1 会議内容

- (1) 会議設置要綱の確認
- (2) 会長及び副会長の選出
- (3) リニア関連道路整備事業の状況報告
- (4) リニア駅周辺整備基本構想の確認
- (5) 基本計画の概要説明及び進め方について

2 主な意見の概要

全体事項

- ・基本構想で掲げた内容を前提に議論を進める必要がある。
- ・地域全体の経済発展とリニア事業をリンクさせるため、別組織での検討が必要である。
- ・長野県全体として誇れるような駅機能や魅力づくりが必要である。
- ・飯田という地域を全国的に広めるチャンスである。
- ・地域の活性化には、民間事業者の資本が必要であり、民間事業者が具体的なイメージを持てるように、様々なことを決める必要がある。
- ・何かを造る場合、建設・運営の主体や費用を頭に入れておく必要がある。

整備予定区域

- ・道の駅のように、駅前にすべてを抱え込まない整備をしたらどうか。
- ・狭い意味での整備区域として、7.8haは妥当な規模である。
- ・駅周辺をコンパクトに整備するためには、乗降客数を決めることが重要である。
- ・整備予定区域を決定後に他の課題を整理する場合、整備予定区域が変更となりうるが、柔軟に対応するべきである。
- ・技術的な観点等から整理を行っていくのはよいと思う。

会議等の運営方法

- ・会議の進め方、部会の構成メンバーなどは関係機関と十分に調整する必要がある。
- ・駅前に抱え込まない要素は、長い期間で議論ができると思う。

トランジットハブ・道路ネットワーク

- ・長野県駅の利用規模及び範囲を決定することが重要である。
- ・想定乗降客数の精度が重要である。
- ・拠点間のアクセスには鉄道やバスなどの公共交通が必要である。
- ・レンタカー利用を想定した検討をしてほしい。
- ・三遠南信自動車道路とリニア駅のアクセス性を高めて頂きたい。
- ・アクセス性がよければ、広範囲に移動できるので、広域的な発展を考える必要がある。

(裏面に続く)

環境・景観

- ・誰にとっての「らしさ」であるかを検討する必要がある。
- ・リピーターを増やすためには、地域住民の顔や言葉（活気ある様子）が必要であるので、地域住民に配慮してほしい。
- ・優良農地がなくなることや、農業後継者がいなくなることによる不安を感じている。
- ・地域交流の中で、他地域から自然を大切にしてほしいと言われている。

交流人口の増

- ・基本構想で掲げた基本方針 4 は基本方針 3 が前提である。
- ・ヘリコプター観光など、思い切った取り組みを行ったらどうか。
- ・遺跡や史跡を加味した整備をすれば、交流人口が増えると思う。
- ・駅周辺整備による恩恵は小さいので、こういうものを作れば観光振興策になるという発想ではなく、別の視点で考える必要がある。

リニア中央新幹線駅周辺整備計画の検討について

1 基本的な考え方

- (1) リニア中央新幹線の開業により、国内外との交流の拡大、移住・二地域居住人口の増加、地域産業の振興等が期待されるが、そのようなリニア整備効果を伊那谷地域・長野県内に広く及ぼすためには、広域的・総合的な観点から、交流人口の拡大と地域振興につながる施設・機能の検討や二次交通アクセスの強化についての検討、民間資本を呼び込むための都市整備や土地利用・都市計画についての検討等が必要である。
- (2) 平成 27 年 6 月にまとめた「リニア駅周辺整備基本構想」（以下「基本構想」という。）においても、同様の視点から、目指すべきリニア駅の実現に向け検討すべき項目やリニアの整備効果をより広域的に波及させるための検討項目を多岐にわたって言及しているが、それらの具体化に当たっては、「リニア駅周辺整備検討会議」（以下「当検討会議」という。）にテーマ別部会を設け、専門的に検討していくこととしたところである。
- (3) 当検討会議では、広域的・総合的視点を踏まえた検討が行えるよう、有識者や各種団体の代表者に委員として参画していただいているが、具体的な議論が基本構想において「駅周辺整備を検討するエリア」とされた区域（以下「整備予定区域」という。）を如何に整備するかという点を中心に行われることから、より広範な地域を対象とした地域振興策を検討する必要があるのではないかという指摘も頂いているところである。
- (4) この点については、長野県が中心となって「伊那谷自治体会議」が設置され、これまでも「リニアバレー構想（骨子）」を取りまとめる等、リニアを活かした地域づくりについて検討が進められてきている。
- (5) 当検討会議における検討経過・検討内容については、随時、「伊那谷自治体会議」に報告することとしているところであり、今後とも、両会議が連携して検討を進めていくこととする。（資料 2 - 2 参照）

2 当検討会議のテーマ別部会の進め方について

- 当検討会議に設置する以下の 4 つのテーマ別部会においては、整備予定区域を主な検討対象としつつも、常に「リニア整備効果を伊那谷地域・長野県内に広く及ぼすためにはどうすればよいか」を基本的な視座として議論していくものとする。
- 各部会の検討内容については、長野県及び上下伊那の市町村や広域連合とも調整を重ねながら、平成 28 年度内に定めることとしている基本計画に盛り込んでいくこととする。また、前述のように、当検討会議を通じて伊那谷自治体会議に随時

報告し、幅広い視点から議論を重ねていく。

○なお、飯田市においては、各部会での議論の内容を、適宜、次期総合計画に反映していくとともに、並行して、リニア駅周辺を始めとする市内の土地利用計画・都市計画について長野県と調整しながら、検討を進める。

(1) トランジット・道路ネットワーク部会

<ミッション>

リニア長野県駅が、乗降客がスムーズに乗り換えを行うことができる「高度なトランジットハブ」としての役割を果たすことができるよう、リニア駅周辺の交通動線について技術的な検討を行い、整備予定区域を主な対象に、駐車場、交通広場、道路等の形状や位置等について提案する。また、JR飯田線乗換新駅についても検討していく。

<主な検討内容>

平成27年度においては、整備予定区域における交通広場、駐車場、道路等について、現地の地形やJR東海が進めるリニア本体工事、長野県が進めるアクセス道路整備等の状況も踏まえて技術的な観点から検討を行い、複数の配置案を示しながら、整備予定区域に確保すべき整備エリアを提案する。

平成28年度においては、リニア本体工事、アクセス道路等の進捗状況に合わせて検討内容の具体化を進める。

(2) 魅力発信部会

<ミッション>

リニア整備効果を観光・消費の面で伊那谷地域・長野県内に広く及ぼすため、効果的な情報発信や、地域製品の購買意欲を高める方策（ソフト）及び必要な施設整備（ハード）の在り方について検討を行う。

<主な検討内容>

平成27年度においては、基本構想において整備区域に整備すべきとされた魅力発信施設の在り方について、他地域の事例（新幹線駅の例のみならず、道の駅やアンテナショップ等も含む。）を参考としながら、備えるべき機能や規模等のイメージを検討し、整備予定区域に確保すべき整備エリアの検討の参考となる提案を行う。

平成28年度においては、魅力発信施設の内容について具体的な検討を進めるとともに、整備主体・運営主体の在り方についても検討する。

(3) 環境・景観部会

<ミッション>

リニア長野県駅を利用する乗降客が「伊那谷らしさ」を感じるとともに、周辺住民の皆さんが親しみを感じ愛着を持てるような駅空間のデザインや周辺環境・景観の在り方、その実現手法等について検討する。

併せて、リニア駅周辺における再生可能エネルギーの利用やゼロエミッション、低炭素化等の取組の在り方についても検討する。

<主な検討内容>

部会は可能な限り早期に立ち上げることとし、平成28年度にかけて、「伊那谷

らしさ」とは何か、それを表現するためには具体的に何をすべきか等について検討する。

なお、この部会の検討内容は、リニア中央新幹線開業まで（あるいは開業後まで）継続して取り組んでいくべき事項が多いことから、継続的に取り組むための組織・仕組みの在り方についても検討し、平成 29 年度以降に引き継いでいくことを念頭に置く。

（４）交流人口拡大部会

＜ミッション＞

伊那谷自治体会議において議論されるリニア中央新幹線の整備効果を活かした地域振興策の検討を受け、この地域らしい「おもてなし（迎賓）」の在り方やMICE機能の可能性について検討を行う。

＜主な検討内容＞

伊那谷自治体会議における議論と連動しながら、交流人口の拡大の方策について検討する。

※MICE機能

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

リニア駅周辺整備検討体制

市民



リニア駅周辺整備検討会議

- ・委員18名で構成
 民間委員12名（学識経験者3名、計画地域の代表者3名、各種団体の代表者6名）
 行政機関6名（長野県、広域連合、飯田市）



基本計画
(平面計画)

テーマ別部会

トランジットハブ・道路ネットワーク 施設の規模・配置 周辺道路ネットワーク JR飯田線乗換新駅、高架下空間の活用
魅力発信 施設の規模・配置、情報発信の方策 運営主体・他施設との連携、利便性・交流機能向上
環境・景観 周辺に良好な景観づくり、駅舎・駅空間デザイン 周辺環境への配慮
交流人口の増 地域らしい迎賓機能、MICE機能の検討

都市計画、駅周辺整備区域に隣接する地域の土地利用計画



伊那谷自治体会議

広域公共交通
 2次交通手段・経路
 拠点間アクセス道路

広域観光
 情報発信
 インフォメーション
 信州版DMO
 インバウンド対応

平成 27 年度の部会の課題検討において配慮すべき事項

1 トランジットハブ・道路ネットワーク部会

平成 27 年度には、下表に示す課題・内容を検討することになるが、その際には、「高度なトランジットハブ」機能を実現する上で必要となる、「他の交通手段への円滑な乗換」や「現地の地形を踏まえた計画」、あるいは「周辺道路とのアクセス」等の点について、配慮しながら進めることとする。

課題	詳細	内容
施設規模・配置 (駐車場・広場・ 南北道路)	駐車場	位置、規模、構造(平面、立体)
	パーク&ライド駐車場	位置、台数
	交通広場	位置、形状、次世代型交通研究
	バス(路線・高速・観光)、タクシー、レンタカー・家用車の乗降スペース	位置、台数
	南北道路	必要性、位置、機能ほか
	街区道路	位置、機能、規格、電線地中化
	構内道路	位置、機能、規格
	利便性(動線、歩道)	人、自動車等の動線の検討
	交流施設(イベントスペース、コミュニティ施設、公園等)	有無、位置、規模、機能(多目的スペース)
周辺道路ネットワーク	周辺道路(SIC アクセス道路・国道 153 号・県道市場桜町線・周辺市道)への接続	周辺道路との接続、交差点位置
高架下空間の活用	コンコース(南北を繋ぐ歩行者通路)施設	規模
造成高の検討	排水、河川、調整池等、各施設間の配置位置	安全性の確保、移動円滑化

リニア駅周辺整備検討会議「トランジットハブ・道路ネットワーク部会」委員構成（案）

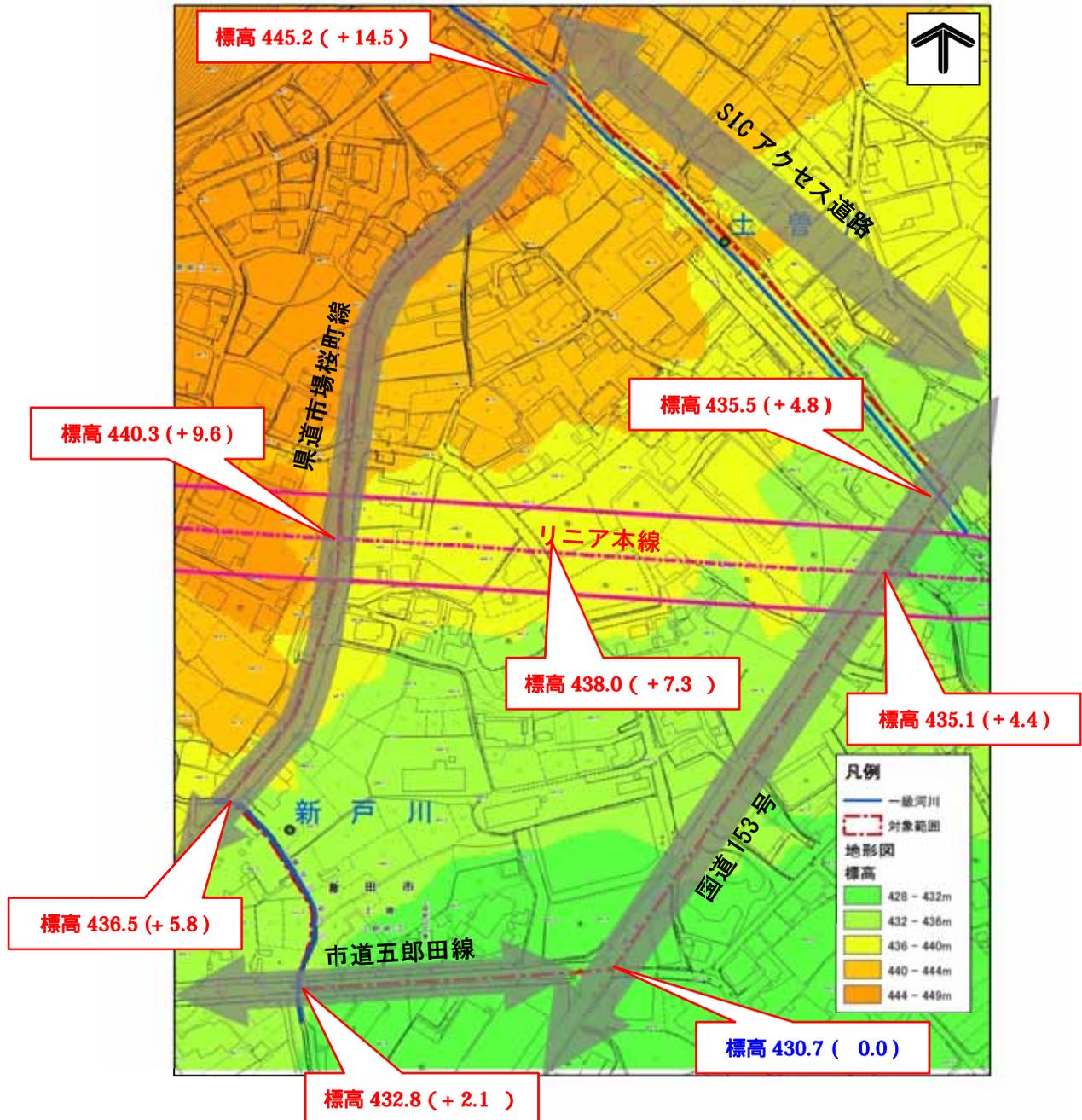
組織団体名	役職名	氏名	備考
信南交通(株)	代表取締役社長		
長野県タクシー協会	下伊那支部長		
飯田建設事務所	所長		
上伊那広域連合	事務局長		
南信州広域連合	事務局長		
飯田市建設部	建設部長		
飯田市建設部 リニア推進部	建設部参事 兼リニア推進部参事		
(事務局)			
飯田市リニア推進部	リニア推進部長		
	リニア推進課長		
	リニア整備課長		

リニア駅周辺整備検討会議「魅力発信部会」委員構成（案）

組織団体名	役職名	氏名	備考
飯田観光協会	会長		
南信州観光公社	社長		
伊那市観光協会	事務局長		
駒ヶ根観光協会	統括本部長		
長野県観光協会	誘客促進部長		
木曽観光連盟	事務局長		
長野県観光部	観光誘客課長		
信州首都圏総合活動拠点	所長		
下伊那地方事務所	商工観光課長		
上伊那地方事務所	商工観光課長		
南信州広域連合	事務局長		
上伊那広域連合	事務局長		
伊那市観光課	課長		
駒ヶ根市観光課	課長		
飯田商工会議所	事務局長		
伊那商工会議所	事務局長		
駒ヶ根商工会議所	事務局長		
商工連南信州支部	事務局長		
南信州農業協同組合	専務理事		
南信州・飯田産業センター	事務局長		
(事務局)			
飯田市リニア推進部			
飯田市産業経済部	産業経済部長		
	農業課長		
	観光課長		

地理的条件の整理

1 現況の地形



《 地形の特徴 》

国道 153 号と市道五郎田線の交差点(北条交差点)から北方向、県道市場桜町線と土曾川交差点付近へ向かって 14.5m 上っている。また、国道 153 号と土曾川との交差点付近から県道市場桜町線と土曾川との交差点付近に向かって 9.7m 上っている。

全体として、南から北に向かって上っており、さらに東から西に向かって上っている。

交通事業者へのヒアリング結果

1 ヒアリングの目的

基本計画の策定に当たっては、駅周辺に求められる規模や機能を具体的に検討していく必要がある。特に、駅前広場や駅周辺施設については、実際に利用する交通事業者のリニア駅に対する期待や考え方、現飯田駅における利用実態を把握するため、交通事業者等に対して、ヒアリング調査を行った。

2 ヒアリング内容

- ・現在の各公共交通の利用状況
- ・リニア駅周辺に求める機能、規模（例：乗降場、駐車場、待合所、トイレ等）
- ・駅周辺整備に関する要望等

3 ヒアリング結果と検討内容

バス事業者

事業者の意向（要望）	検討内容
一般車両との分離した乗り入れの配置	種類別の分離配置の検討
路線バスは方面毎のバースを配置	適正なバースの検討
高速バスバースは1台分程度	台数、配置場所の検討
高速バス待機バースは1～2台分程度	台数、配置場所の検討
観光バス乗降、待機バースは3～5台分程度	台数、配置場所の検討
待機場は近隣への設置	設置場所の検討
バスバース、待機バースの機能的な配置	機能的な配置の検討
発券所、総合オペレーション	必要性、規模等を検討
待合室	〃
乗務員休憩所	〃
トイレ（乗務員用）	〃
バス利用者への案内表示	〃

タクシー事業者

事業者の意向（要望）	検討内容
タクシープールは集約配置	集約配置を検討
乗車バースは2台分程度	台数、配置場所の検討
降車バースは2台分程度	台数、配置場所の検討

他地域の事例

〔事例 1〕 他の交通への円滑な乗換

・北陸新幹線 「黒部宇奈月駅」(富山県 黒部市)



- ・交通広場は円形
- ・公共交通車両と一般車両を分離して広場を設置
- ・隣接する富山地方鉄道「黒部駅」へは、高架下、シェルターを利用して天候に左右されずに移動可能

・円形広場の中央に車両待機場所を設置



- ・東口は公共交通広場
- ・南口に一般車両広場を設置



〔事例 2〕 他交通への円滑な乗換

- ・北陸新幹線 「新高岡駅」(富山県 高岡市)



- ・交通広場は円形
- ・公共交通車両と一般車両を分離して広場を設置
- ・駅からの乗換はシェルターを利用して天候に左右されずに移動可能



〔事例 3〕 多目的利用 (多目的広場)
・日豊本線 「日向市駅」 (宮崎県 日向市)



- ・ 駅南口にコンコースから直結して芝生の広場を配置
- ・ 憩いの場
- ・ 芝生広場にはステージを設置して多様なイベントに対応可能
- ・ 噴水、せせらぎスペース、散策用曲線道路を設置
- ・ 災害時の一時避難所

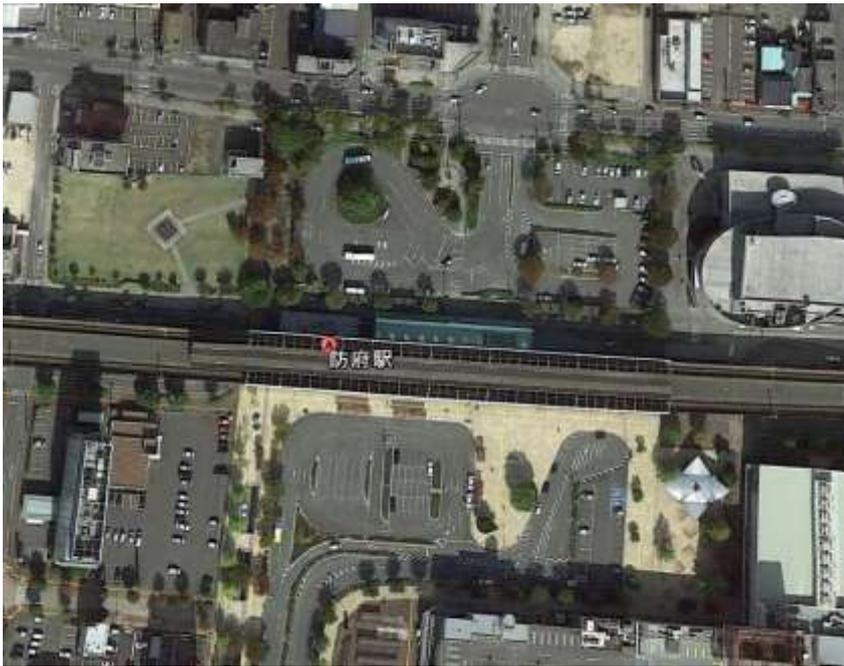


・ イベント状況



〔事例 4〕 多目的利用 (多目的広場)

・山陽本線 「防府駅」(山口県 防府市)



- ・ 駅北口に芝生の広場を配置
- ・ 芝生広場で多様なイベントに対応可能
- ・ 噴水を設置
- ・ 災害時の一時避難所

・ イベント状況



・ 噴水



〔事例 5〕 利用者の利便性（駐車場）

- ・北陸新幹線「新高岡駅」（富山県 高岡市）



立体駐車場

- ・ 駅に直結して、天候に左右されず時間短縮を図っている

〔事例 6〕 利用者の利便性（駐車場）

- ・北陸新幹線「飯山駅」（長野県 飯山市）



- ・ 駅舎と立体駐車場を防風、防雪シェルターで結んでいる

〔事例 7〕 利用者の利便性（コンコース）

- ・北陸新幹線「軽井沢駅」（長野県 軽井沢町）



- ・ライトグレーを基調にした明るい自由通路
- ・天井から自然光を取り入れている
- ・ロッジ風の三角屋根に合わせた天井

〔事例 8〕 利用者の利便性（コンコース）

- ・北陸新幹線「富山駅」（富山県 富山市）



- ・各交通機関へ分かりやすくつなぐ自由通路
- ・天井が高く広々と感じる